

水痘について

東地方 + 青森市保健所管内で**警報**が発令されました。

1 例でも発生すれば「アウトブレイク」となります。高齢者の発生も珍しくありません。7 日以内の 5 類感染症 全数報告です(入院に限り)



病原体	水痘帯状疱疹ウイルス(varicella zoster virus; VZV)によって起こる急性の伝染性疾患である。一般には「みずぼうそう」と知られている。
潜伏期間	10 日から 21 日間
症状	水疱(水ぶくれ)と 38℃前後の発熱で、全身に直径 3～5mm 程度の丘疹(盛り上がった赤い発しん)が出現。数日にわたり新しい発しんが次々と出現し、急性期には紅斑、丘疹、水疱、痂皮(かさぶた)のそれぞれの段階の発しんが混在するのが特徴。すべての発しんが痂皮になるまで 6 日程度かかる。通常、軽症で終生免疫(一度の感染で生涯、その感染症にはかからない)を得ることが多いが、成人では重症になることがあり、髄膜炎や脳炎などの合併症の頻度も高くなる。 <u>またウイルスは治癒後も体の中に潜伏していて、何年も経過してから「帯状疱疹」として再発することがある。</u>
検査	血液抗体検査。通常は臨床的に診断。
治療	抗ウイルス薬(アシクロビル、バラシクロビル、ファムシクロビルなど)を使用
感染経路	感染経路は、患者の咳やくしゃみに含まれるウイルスを吸い込むことによる感染(主に飛沫感染、空気感染)、あるいは、水疱や粘膜の排出物に接触することによる感染(接触感染)がある。発しん出現の 1 日から 2 日前からすべての水疱が痂皮化するまで感染性がある。
予防	有効な予防法は予防接種で2014年10月より水痘ワクチンが定期接種となった。水痘患者に接触した場合でも、3 日以内にワクチンを接種すれば 80%から 90%発病を予防でき、家族内感染の予防や施設内感染の防止に有効とされている。また、発症した場合でも症状の軽減化が期待できる。